

「博士が民間企業で働くという選択肢 就職活動で選択肢を広げたい人に向けて」

【開催日】2022 年 7 月 4 日（月）12:15～13:15（オンライン開催）

【講師】新倉 純樹 先生（KDDI 総合研究所 シンクタンク部門 コアリサーチャー）

第 2 回目となる今回は、2017 年 9 月に本学で博士（政策科学）の学位を取得された後、民間研究所や非常勤講師等を経て、現在は KDDI 総合研究所（シンクタンク部門）に勤務されている新倉純樹先生に、「博士が民間企業で働くという選択肢 就職活動で選択肢を広げたい人に向けて」と題してご講演頂いた。その主な内容は、以下の通りである。

1. 自己紹介

現在は、KDDI 総合研究所でコアリサーチャーとして、リサーチに関連する仕事に携わっています。KDDI は通信企業ですが、通信以外に関する研究にも取り組んでいる研究所になります。主な担当業務としては、企業から依頼を受けて新しいサービスや生活者に関する調査を行い、レポートや発表に取りまとめるといふものです。私の博士論文は、「世代間政治力格差と財政運営」で、現在の業務とは異なる、政治に関するテーマでした。有権者が投票に行くことによって、財政運営や財政支出は、どう変わるのかという内容でしたが、データを使う実証的な分析だったので、この点では、現在の業務とも繋がりがあるかもしれません。こういったスキルを使って、仕事に取り組んでいるという感じです。

現在に至るまでの経歴ですが、もともとは、本学の経済学部を卒業しました。学部時代から、自分の興味のあることについて調べることが好きだったので、もう少ししっかりとしたものを書きたいなという思いから、総合政策科学研究科の修士課程に進学しました。ただ、修士課程に在学中から、修了後に博士後期課程に戻るまでの間に、ベンチャー企業の立ち上げにも携わっていました。ここで得たお金で、博士課程後期課程での生活費を賄っていたという状況です。なお、博士後期課程についても、戻りたいという強い意志よりは、修士課程でやり残したものがあるという思いがありました。研究者になりたいというよりは、まだ、やりたいことがあるという純粋な興味でした。そのため、自身のキャリアについて、あまり真剣には考えていなかったかもしれません。もし、うまくいかなかった場合には、また、ベンチャー企業の立ち上げなどに関わることが出来ればという心境でした。その後、博士論文の執筆が終わって学位を頂き、民間企業や大学への就職活動にも取り組みました。その結果、現在とは別の研究所に勤務し、本学の非常勤講師も担当しました。そして、2020 年から転職活動を開始し、KDDI 総合研究所に着任したという状況です。

2. 具体的な就職活動

就職活動で、具体的には何をやったかという話になりますが、大体、博士後期課程の 3 年目の冬くらいから、活動を始めました。基本的には、JREC-IN を毎日確認するというもので、これが日課になっていました。この時に、自分の専門分野に関するものが出ていれば、必ずチェックしていました。ただ、絶対に大学でなくてはという感じではなかったので、民間企業の公募が掲載してある場合もチェックしていました。また、JREC-IN に出ていなくても、自分が興味のある企業、評判の良い企業については、その企業の採用に関するページを見ていました。特に、博士後期課程修了前後では、新卒と転職の双方のポジションについても確認していました。そして、自分が合いそうな方に応募してみるという状況でした。面接までは、スムーズに行ったりする場合もあるので、その際には、人事の方々に新卒と転職のどちらが良いかを相談してみることもありました。また、民間企業の場合には、紹介制度（リファラル）があったりするので、大学院に入る前からの友人に、民間企業への就職も視野に入れていることを伝えておくようにしました。ただ、何よりもまずは、選択肢を常に増やせるように考えていました。もちろん、全く興味のない分野には応募しませんでした。大学、民間企業、官庁に

も応募してみました。個人的な実感では、良い意味で、あまり深く考えずに応募するというのも大事かと思います。

3. 大学と民間、就職活動って何が違う？

実際に就職活動に取り組んだ経験からですが、大学と民間では、どこが異なっていたのかという点について考えてみたいと思います。まず、大学ですが、既に応募された経験がある方はご存知かと思いますが、大学ごとに書式が異なり、全く転用ができません。西暦で書いたり、和暦で書いたり、「年」だけでも記入方法が違うのです。そのため、作成するたびに、結構なエネルギーが必要になります。また、最近は Web 応募の場合もありますが、郵送も多いため、送料や書類の印刷代も馬鹿になりません。これに対して民間は、書式を指定してくることは少なく、メールや HP のフォームからの応募も可能です。1 社あたりにかけるコストが、大学と比べるとかなり低いです。そのため、ご自身が興味のあるところには、どんどん出して良いかと思います。また、大学の方は、論文や学会、教育歴の有無を重点的に記述する書式であるのに対し、民間は、論文等については、アチーブメントとして書くことがあります。その際に得たスキルを前面に出した方が、受けが良いのではないかという印象を持ちました。自分の場合には、統計を使って実証的な分析を行っていたので、この点を強調しました。そして、面接については、(自身の経験に加え、周囲からの伝聞も含めますが) 大学の場合だと 1 回もしくは 2 回で終わりますし、1 対多数のことが多いという印象を持っています。私の経験では、一番少ない時で 3 人でした。多い時は、7 人~8 人いらっしやったような気がします。また、模擬授業をやってくださいという大学もありました。質問の内容としては、自身の研究だけではなく、地域への貢献であるとか、学生への対応について聞かれたように記憶しています。民間の場合には、1 対少数の場合が多く、最多でも 3 人という感じでした。もちろん、企業によって採用プロセスは異なるので、一概には言えませんが、大体、2 回から 3 回実施されるという印象でした。これらを経て、意思確認を行うための最終面接という場合もありました。聞かれたことを一般化すると、大学と似通った部分もありますが、自身の専門分野以外の業務でも対応できるかということでした。

4. 広がる活躍の場

先ほど、自身のスキルを前面に出すことも重要と申しましたが、これまで民間企業では就職がないと言われていた分野でも、少しずつポジションが増えているので、目を向けてもらえたらと思っています。例えば、ソニーが、文化人類学のリサーチャーを募集したことも話題になりました。また、日本の事例ではありませんが、Google や apple が、哲学や倫理学系の研究者を雇用して、近年の「ポリティカル・コレクトネス (political Correctness)」への対策として、個人の権利関係について、形而上学的な観点から検証するというポジションも生まれているようです。自身の場合には、データを使えるということが、就職の際の 1 つの要因になったと思うのですが、そうでない方々にも新たなポジションが生まれつつあるので、一度は、企業に目を向けてみるのも良いのではと考えています。特に Google などは、博士号や修士号を必須とすることが多いので、採用に関するサイトを見てみる価値があるのではないかと思います。これらは、絶対に、JREC-IN では見つからない情報です。また、博士号を必要としない場合でも、レポート作成やリサーチに関するポジションが見つかることもあります。採用する側も、そこまで高いスキルや能力は求めていなかったという場合もありますが、話をしていくうちに、そういうこともできるのであれば、こういうこともやって欲しいということで、話が広がる場合もあります。そのため、ご自身が関心のある企業については、採用に関する情報を確認してみることも重要です。

5. 最後に

これまでの経験を踏まえたメッセージ的なものになりますが、興味のある分野から、民間企業を探してみるのも良いのではないかと思います。大学とは異なる、思いがけない出会いがあるかもしれません。そして、現在は、大学への就職は厳しい状況になっていますが、必ずしも大学だけが選択肢ではないと思うことができれば、就職活動も精神的に楽になり、それが、結果的に、自分の行きたいところに行けることに繋がるかもしれません。

※ご講演の後、参加した学生との間で質疑応答も行われましたが、内容については、省略します。

(文責：高等研究教育院 加治木紳哉)

事前申し込みが必要です

第2回「博士キャリアカフェ」(7月4日:オンライン開催)
「博士が民間企業で働くという選択肢
-就職活動で選択肢を広げたい人に向けて-」

本学は、2021年度に科学技術振興機構(JST)「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」に採択され、挑戦的・融合的な研究に専念できる機会を用意するとともに、真の国際人となれるよう海外経験の促進、キャリアパスの支援を一体的に行っています。このキャリアパス支援の一環として、アカデミア、企業、官公庁等を問わず様々な分野の先輩から、キャリアパスの選択に関するご自身の経験や現在の状況についてお話を伺う「博士キャリアカフェ」(少人数グループによる座談会形式)を2022年度から定期的 to 開催します。講師の先生と、ざっくばらんに情報交換ができる貴重な機会となりますので、奮ってご参加ください。

なお、参加をご希望の方は、事前にお申し込み下さい。

【講師】 新倉 純樹 先生

KDDI総合研究所 シンクタンク部門 コアリサーチャー

博士(政策科学) (2017年9月 同志社大学)

【日時】 2022年7月4日(月)12:15~13:15(60分)

【構成】 新倉先生のお話(30分)、懇談(30分)

【対象】 本学に在学中の学生(学部・研究科は問わず)

【定員】 30名程度

※ただし、同志社大学大学院博士後期課程次世代研究者挑戦的研究プロジェクト支援対象学生の参加を優先します。

【申し込み方法】

- 本ガイダンスはZoomによるオンライン開催となりますので、事前申し込み制とさせていただきます。
- 6月30日(木)までに、右のリンクもしくはQRコードからお申し込み下さい。参加用のURLをお送りいたします。



お申込みフォーム URL
<https://forms.office.com/r/V5Qqh1e5NP>

本件に関するお問合せ先: 研究開発推進機構研究企画課
TEL: 0774-65-8257
Mail: ji-knkak@mail.doshisha.ac.jp